

インバウンド政策の課題

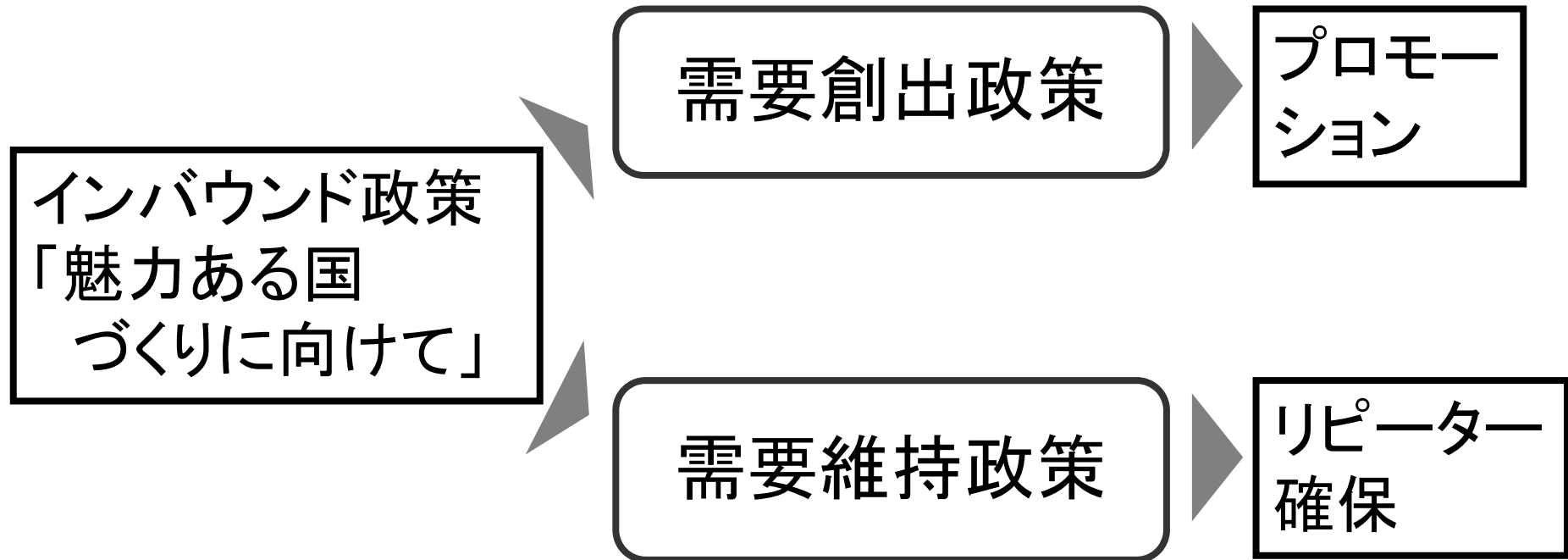
筑波大学大学院システム情報工学研究科

栗原 剛

インバウンド政策の論点

- インバウンド政策の構造を可視化
- 政策の定量評価 (本日の報告内容)
- 諸外国との政策比較
- 航空政策との関連について
- インバウンドの制度に関する議論

インバウンド政策の構造



プロモーションの内容

プロモーション

需要喚起

トップセールス、旅行展

海外メディア（CM、書籍、旅行雑誌等）

二国間観光交流

訪日障壁軽減

査証免除

国際空港容量拡大

地方空港活用

リピーター確保の内容

リピーター確保

来訪客受け皿整備

観光まちづくり

案内、接遇向上

高い品質の提供

人的交流の拡大

快適な旅行支援

安全確保

モビリティ支援

コミュニケーション能力向上

選択肢多様化

電子サービス活用

インバウンド政策の課題1

研究題目:

わが国の旅行環境に対する外国人来訪者の
評価に関する研究

需要喚起

減

イン
政策

需要維持政策

リピーター
確保

受け皿整備

旅行支援

どんな旅行支援が求められるか？

旅行環境とは？

観光魅力

来訪前の目的地選択問題

魅力

美しさ

高品質

旅行環境

来訪中に会う環境

再来訪意図に影響

清潔 バリアフリー

電子サービス

多言語表示

コミュニケーション

安全

公共交通

物価

旅行環境評価項目

旅行環境

安全

公共空間、ホテル、公共交通

清潔

歩道、トイレ

バリアフリー

道路、駅、空港、ホテル

多言語表示

道路標識、駅(案内、切符)、
地図・パンフレット、レストランメニュー

コミュニケーション

駅、空港、観光案内所、
ホテル、一般人

物価

宿泊費、交通費、食費

公共交通

頻度、定時性、運賃、営業時間

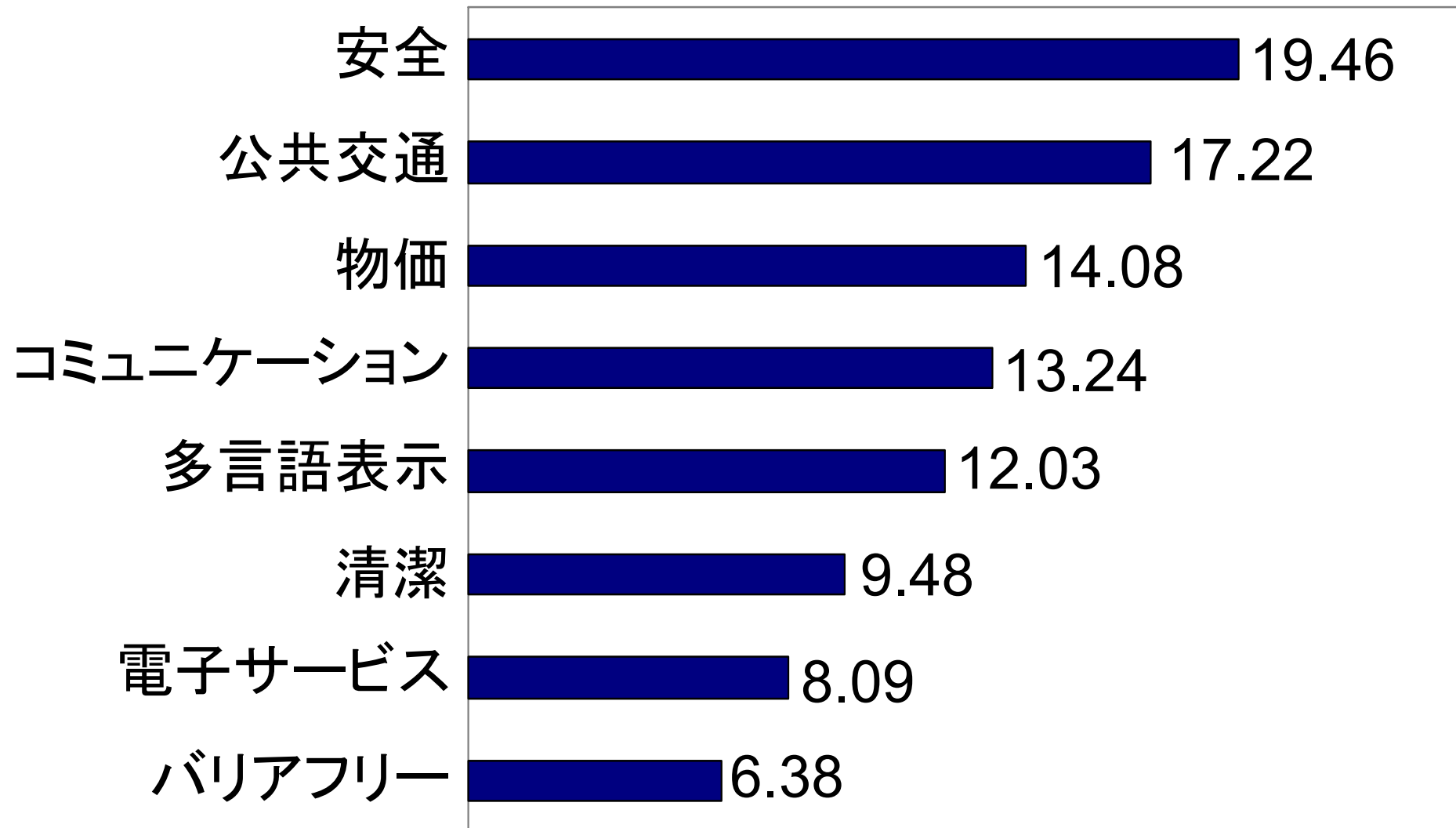
電子サービス

ATM、クレジットカード利用可能、
携帯電話使用可能、インターネット回線

調査の実施概要

調査実施日	2007年11月中旬	2007年12月上旬
調査地	浅草	メール
調査票	英語、韓国語、中国語	英語、韓国語、中国語
調査方法	対面記述式	メールでの配布、回収
対象者	外国人来訪者	①海外在住の外国人で、 訪日の経験がある者 ②海外在住の外国人で、 他国への外国旅行経験がある者 ③日本在住の外国人または留学生
サンプル数	71票	31票

旅行環境項目の重要度

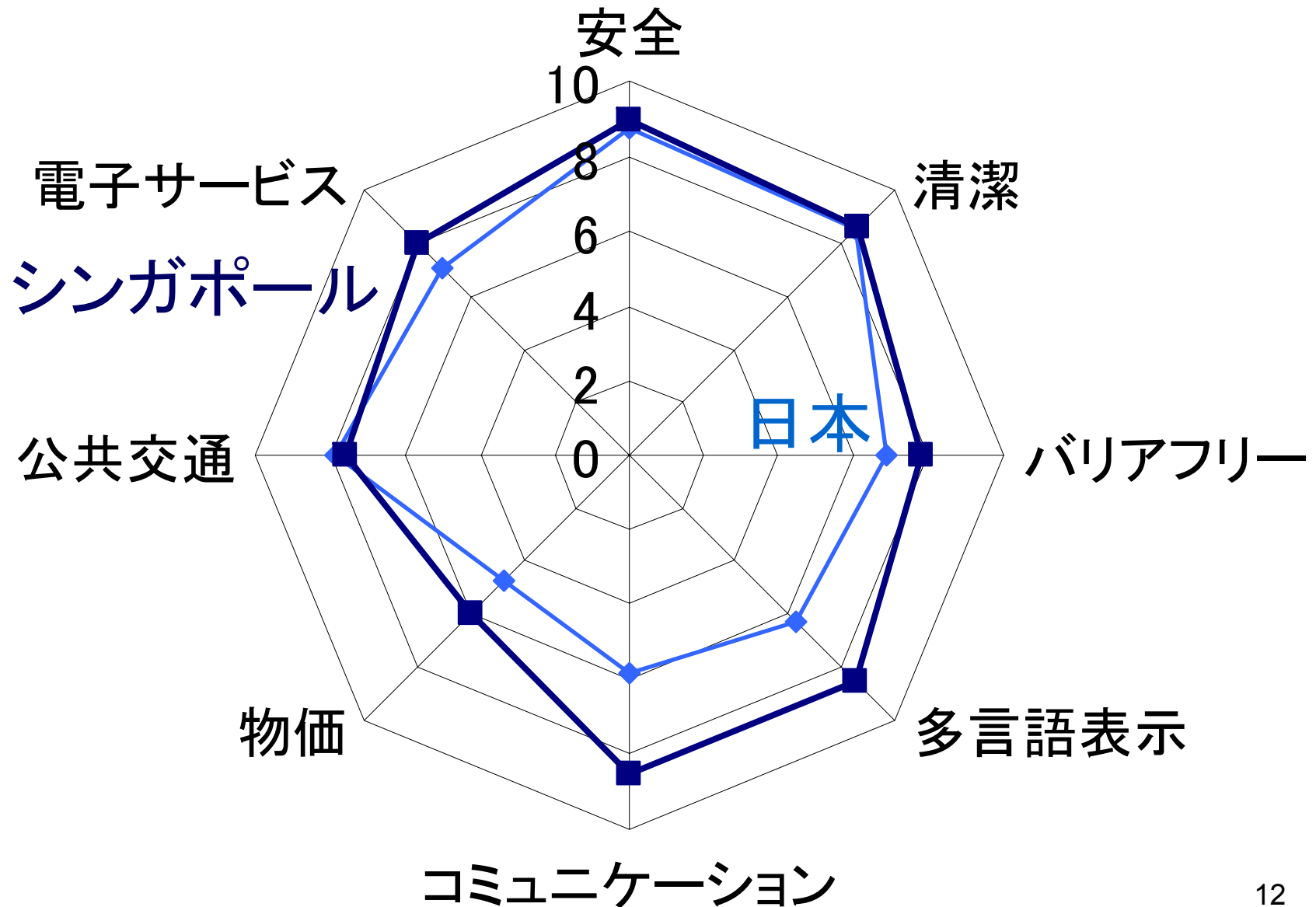


(整合度指数 0.00215) (n=98)

旅行環境項目の重要度(地域別)

項 目	アジアからの 来 訪 者	北米からの 来 訪 者	ヨーロッパからの 来 訪 者
安 全	17.89	22.88	19.74
清 潔	8.87	9.89	10.81
バリアフリー	6.57	5.59	6.56
多言語表示	12.55	10.81	10.94
コミュニケーション	12.75	12.05	14.75
物 価	15.94	12.66	10.71
公 共 交 通	16.82	18.59	18.68
電子サービス	8.61	7.53	7.80
合 計	100.00	100.00	100.00
整合度指数	0.00214	0.00284	0.00320
サンプル数	52	19	21 ¹¹

日本とシンガポールの旅行環境比較



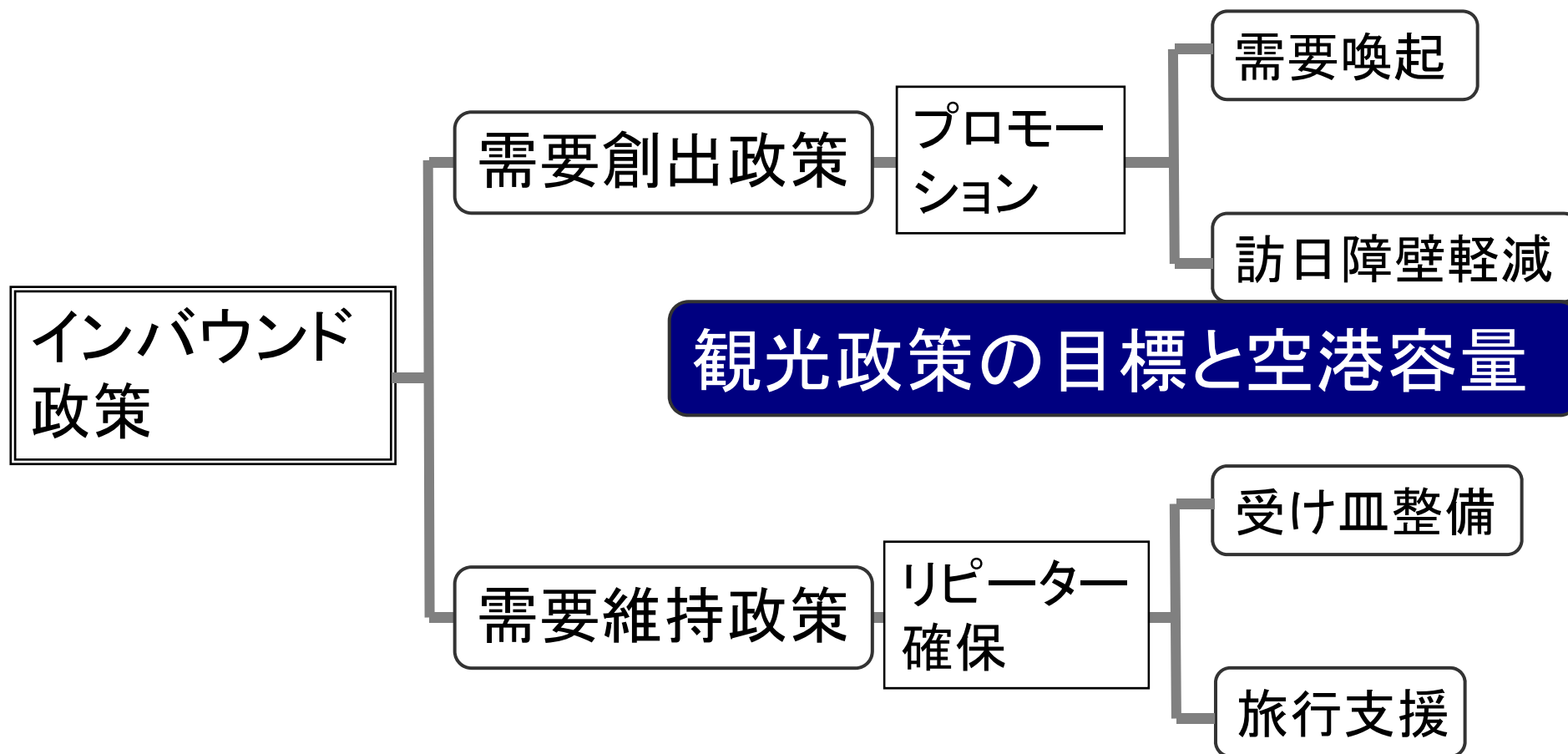
シンガポールの高い旅行環境評価

- 地理的優位性(航空ネットワークの充実)を生かした国際的コンベンション都市として発展
 - トップ・コンベンション・シティの地位を確立
 - ホスピタリティ産業への投資が盛ん
 - 100以上のホテル(超高級～ビジネスホテル)
 - 1,700万人の宿泊客、10万人の雇用を目指す(2015年)
- 絶えず **多くの来訪者の評価** にさらされる
- **多様な人種に対応** できるサービスを展開

わが国の旅行環境整備の課題

- 都市部の多言語表示等整備は進んできた
⇔ 地方では多言語表示、公共交通、
電子サービスそれぞれ課題が残る
- 今後、地方でのインバウンド活性化のため
→ 必要に応じた来訪者支援ができる体制

インバウンド政策の課題2



観光政策の目標値

2020年に

- 日本人海外旅行者数:2,000万人
- 訪日外国人来訪者数:2,000万人



8,000万人分の空港容量が必要

わが国の国際航空旅客数(2006)

空港	旅客数 (千人)	発着回数 (千回)
成田	30,621	176.0
中部	5,104	38.3
関西	10,954	73.0
羽田	1,563	6.9
その他	5,575	46.9
合計	53,817	341.1

観光政策の目標と空港容量

• 将来値 参考:国土交通省航空局

- 成田空港の滑走路延長→発着回数22万回
- 羽田空港新滑走路→国際線へ3万回
- 1便あたり旅客数は固定

足りない空港容量

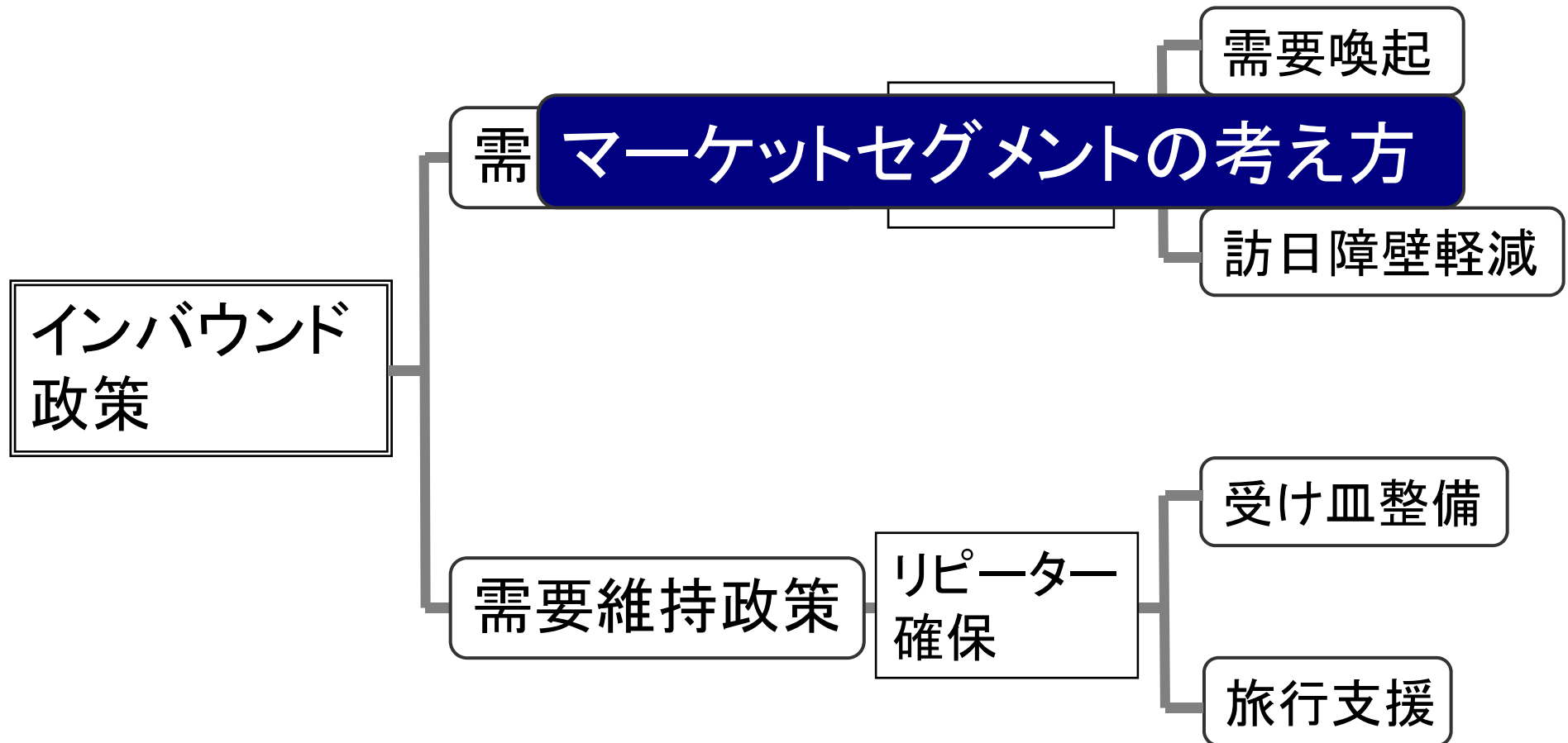
空港容量の試算(2020)

空港	旅客数 (千人)	発着回数 (千回)
成田	35,214	220.0
中部	5,104	38.3
関西	10,954	73.0
羽田	4,310	30.0
その他	5,575	46.9
合計	61,157	408.2
目標	80,000	
不足	18,843	

空港容量の拡大に向けた課題

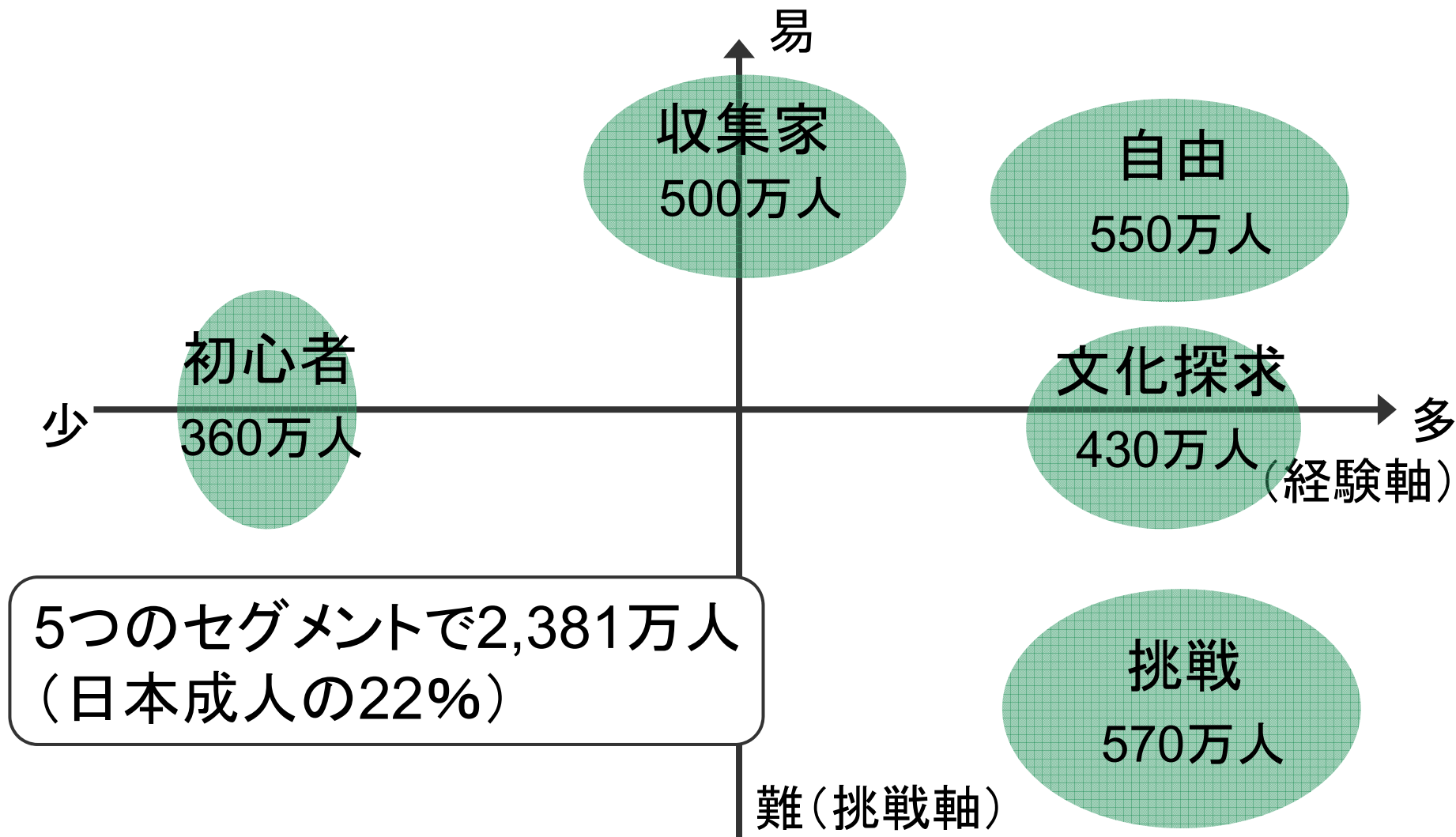
- 羽田、成田で処理できない需要をどうするか？
 - 2,000万人のインバウンド目標(2020年)のうち、
(例)中国人来訪者:600万人を想定
- 近距離路線に対して地方空港を活用
- 地方空港の活用を地方の観光活性化につなげられるか？

インバウンド政策の課題3



どんな人をターゲットにするか？(豪)

- 日本人インバウンドの場合



セグメントの特性

挑戦型とは？

- 高学歴で、家計収入が大きい
- 旅行に自信があり、人が行かない場所を好む
- 英語の上達も望んでいる
- 友人・知人の情報を重視する

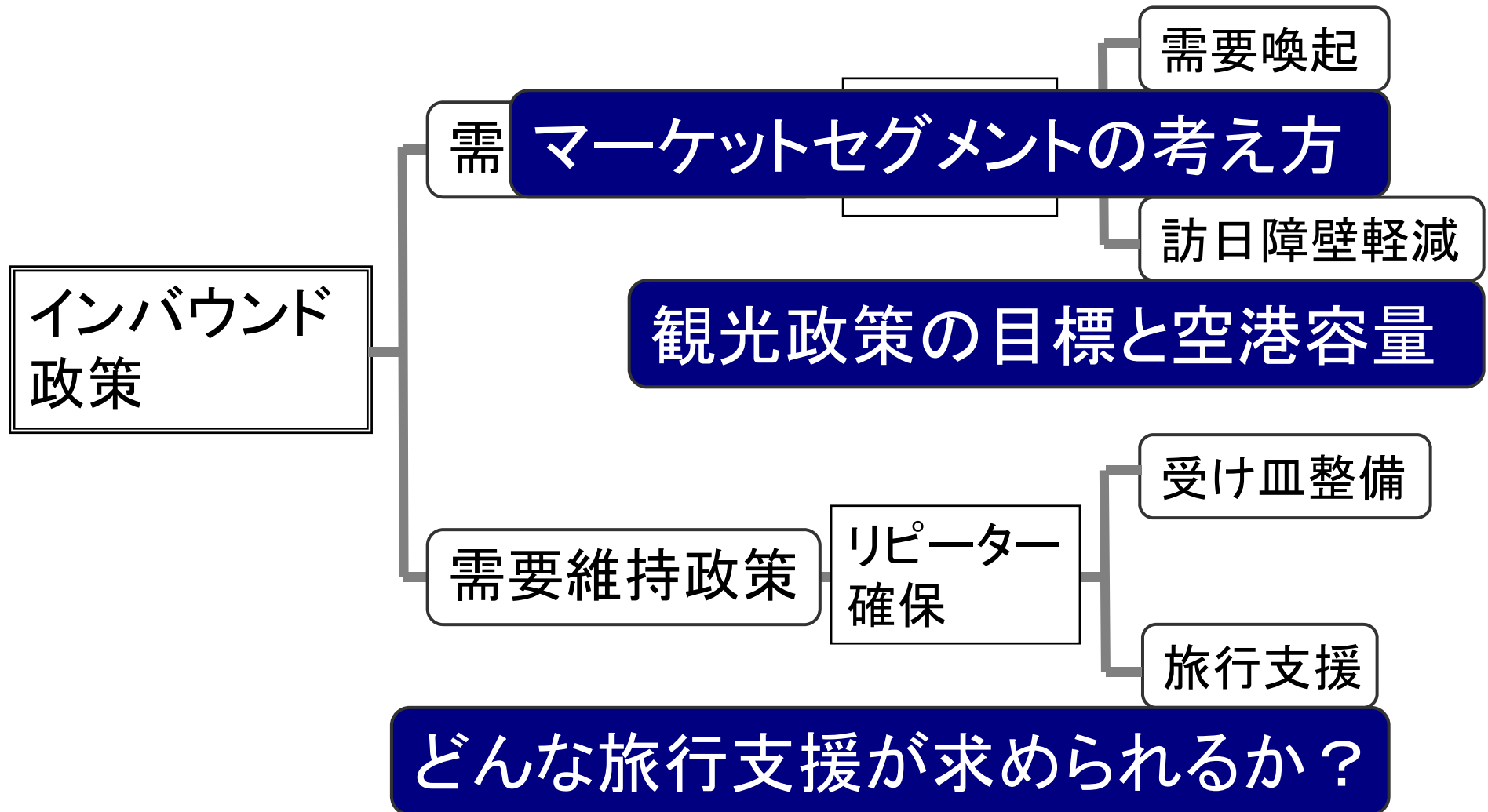
文化探求型とは？

- 年輩、定年退職の世代
- 1人当たり旅行支出が高い
- 有名な観光スポットは一通り見学する
- 団体旅行
- 旅行代理店、新聞での情報を重視する

豪のマーケットセグメント

- やみくもにプロモーションしない
→ 重点的、効率的なプロモーション
- セグメントの特性を見極めて、セグメント別に
広告宣伝を行う
- 長期的な戦略を持つ

インバウンド政策の課題 本日の報告



今後の展望1

- インバウンド政策の課題に対してどのように研究を展開するか

需要喚起

→ 広告と日本に対するイメージに関する研究

訪日障壁軽減

→ 査証免除の効果計測

→ インバウンド目標と地方空港の活用

今後の展望2

来訪客受け皿整備

→日本が発信すべき観光魅力とは？

→外国人来訪者の視点に立ったデスティネーション・マネジメント

▶ 個々の研究課題に取り組みながら
インバウンド政策全体の論点を確立する